

山形県感染症発生動向調査 週報

2026年 第34週

(2026年8月17日～2026年8月23日)

2026年8月26日 発行

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)

TEL.023-627-1109

< 定点把握感染症 >

◎ : 警報レベル

○ : 注意報レベル

定点種別	感 染 症	全国	山 形 県				山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積 (県) 第1～34週	
		第33週	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減			
急性 感染症 呼吸器 点器	内科・小児科（定点医療機関数）		(39)				(7)			(10)			(4)			(6)			(12)				
	インフルエンザ	2417 0.69	35 0.97	35 0.90	▼	4 0.57	3 0.43	▼	15 1.67	15 1.50	▼	2 0.50	1 0.25	▼	3 0.50	3 0.50		11 1.10	13 1.08	▼	9892		
	新型コロナウイルス 感染症(COVID-19)	3896 1.12	61 1.69	51 1.31	▼	10 1.43	9 1.29	▼	11 1.22	14 1.40	△		1 0.25	△	33 5.50	20 3.33	▼	7 0.70	7 0.58	▼	2419		
	(定点医療機関数)		(26)				(6)			(7)			(3)			(3)			(7)				
小児科 定点	RSウイルス感染症	1067 0.51		5 0.19	△					5 0.71	△										689		
	咽頭結膜熱	373 0.18	5 0.21	9 0.35	▲	1 0.17	1 0.17		1 0.17	2 0.29	△				3 1.00	6 2.00	▲				393		
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	1727 0.82	25 1.04	33 1.27	△	2 0.33	8 1.33	△	9 1.50	4 0.57	▼	5 1.67	4 1.33	▼	6 2.00	9 3.00	△	3 0.50	8 1.14	△	3671		
	感染性胃腸炎	4432 2.11	39 1.63	40 1.54	▼	9 1.50	4 0.67	▼	15 2.50	18 2.57	△	2 0.67	2 0.67		6 2.00	8 2.67	▲	7 1.17	8 1.14	▼	4112		
	水痘	386 0.18	8 0.33	15 0.58	▲	1 0.17	6 0.10	△	5 0.83	5 0.71	▼	2 0.67	1 0.33	▼		2 0.67	△		1 0.14	△	574		
	手足口病	5047 2.40	115 ◎4.79	130 ◎5.00	△	22 ◎3.67	22 ◎3.67		39 ◎6.50	46 ◎6.57	△	30 ◎10.00	22 ◎7.33	▼	15 ◎5.00	22 ◎7.33	△	9 1.50	18 2.57	△	1691		
	伝染性紅斑	43 0.02		1 0.04	△					1 0.14	△										99		
	突発性発しん	393 0.19	6 0.25	10 0.38	▲	2 0.33	1 0.17	▼	1 0.17	4 0.57	▲		2 0.67	△	2 0.67	2 0.67		1 0.17	1 0.14	▼	301		
	ヘルパンギーナ	1456 0.69	29 1.21	42 1.62	△	7 1.17	10 1.67	△	8 1.33	21 3.00	△	2 0.67	2 0.67		6 2.00	5 1.67	▼	6 1.00	4 0.57	▼	481		
	流行性耳下腺炎	64 0.03																			19		
	眼科 定点	(定点医療機関数)		(8)				(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
		急性出血性結膜炎	7 0.01																			0	
		流行性角結膜炎	223 0.35		3 0.38	△					2 0.67	△								1 0.50	△	106	
基幹 定点	(定点医療機関数)		(10)				(2)			(2)			(1)			(2)			(3)				
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	8 0.02	1 0.10		▼	1 0.50		▼													2		
	クラミジア肺炎	8 0.02																			0		
	マイコプラズマ肺炎	215 0.45	1 0.10	1 0.10		1 0.50		▼					1 1.00	△							50		
	細菌性髄膜炎	9 0.02	1 0.10		▼	1 0.50		▼													9		
	無菌性髄膜炎	22 0.05																			4		

・表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

・定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

< 通 信 欄 >

〇トピックスで、「手足口病」について掲載しています。

警報・注意報の基準値(参考値)

疾 病 名	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

令和7年第15週から、国の新しい基準が発出されるまでの間、
警報・注意報の基準値については参考値として取り扱いいます。

- ・定点把握感染症の定点当たり報告数グラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。
- ・ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。
- ・感染症のCSVデータは、衛生研究所HPからダウンロードできます。

< 定点把握感染症 年齢別報告数 >

種別点	感 染 症															
	内科・小児科	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	合計
急性呼吸器感染症定点	インフルエンザ		1	1		2		3	3	3	4		3	1	4	35
		30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									
		5	2	1	1	1										
	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	51
		3	4	2	6	2	3	3		2	4		4	2	2	
		30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									
小児科定点		～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	
	RSウイルス感染症		1	1	2		1									5
	咽頭結膜熱		1	3	2	1	1	1								9
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1	1	2	3	9	6	2	2	6		1	33
	感染性胃腸炎		6	4	4	4	6	2	2	1	5	2	3		1	40
	水痘					2	1	3	1	4	1	2	1			15
	手足口病	2	23	41	23	12	10	4	6	4	1		4			130
	伝染性紅斑		1													1
	突発性発しん		2	8												10
	ヘルパンギーナ		4	13	9	4	5	3	1	1	1				1	42
	流行性耳下腺炎															0

< 全数把握感染症 >

感 染 症	報 告 数					備 考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
結核		1	1			
レジオネラ症					1	

< トピックス >

手足口病 警報レベル

第34週における手足口病の県定点当たり報告数は5.00で、6週連続警報レベルを上回っています。

図 手足口病 定点当たり報告数 (2021年～2026年現在)

【ウイルス検出情報】 (2026年8月25日現在)

山形県衛生研究所の検査において、2026年5月以降、手足口病の原因ウイルスの一種とされるコクサッキーウイルスA6が54件検出されています。

手足口病とは

手足口病は乳幼児を中心に主に夏から秋に流行します。手のひら、足底、足の甲や口の中などに水疱を伴う複数の発疹が現れ、3人に1人は38℃以下の発熱がみられます。ほとんどは3～7日で症状は軽快しますが、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎などの合併症を起こすことがあるので注意が必要です。

治療・留意点

特別な治療法はなく、対症療法が行われます。口の中の水疱により、食事や水分が十分にとれず、脱水になることがあるので、食事はやわらかく薄味で、のどごしのよいものに工夫し、水分補給を心がけましょう。

感染経路・予防方法

飛沫感染、接触感染、経口感染により感染し、3～5日の潜伏期間を経て発症します。現在、有効なワクチンはありません。また原因ウイルスはアルコールが効きにくいので、流水と石けんでの手洗いが有効です。ウイルスは便にも排泄されるため、特におむつ交換時は手袋を着用するなどして排泄物を適切に処理し、処理後はしっかり手を洗いましょう。症状が改善した後も2～4週間は注意が必要です。また、タオルの共用は避けましょう。

詳しくはこちらをご参照ください

- ・山形県衛生研究所作成チラシ(※1)
- ・山形県ホームページ(※2)

※1

※2

【急性呼吸器感染症サーベイランス(症候群サーベイランス)】

< 定点把握感染症 >

感 染 症	全国	山 形 県			山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積 (県)
	第33週	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	
急性呼吸器感染症定点 内科・小児科 (定点医療機関数)		(38)			(7)			(10)			(4)			(5)			(12)			75948
急性呼吸器感染症	103658	1179	1527	Δ	245	328	Δ	217	282	Δ	227	243	Δ	238	295	Δ	252	379	Δ	
	29.80	33.69	40.18		35.00	46.86		24.11	28.20		56.75	60.75		47.60	59.00		25.20	31.58		

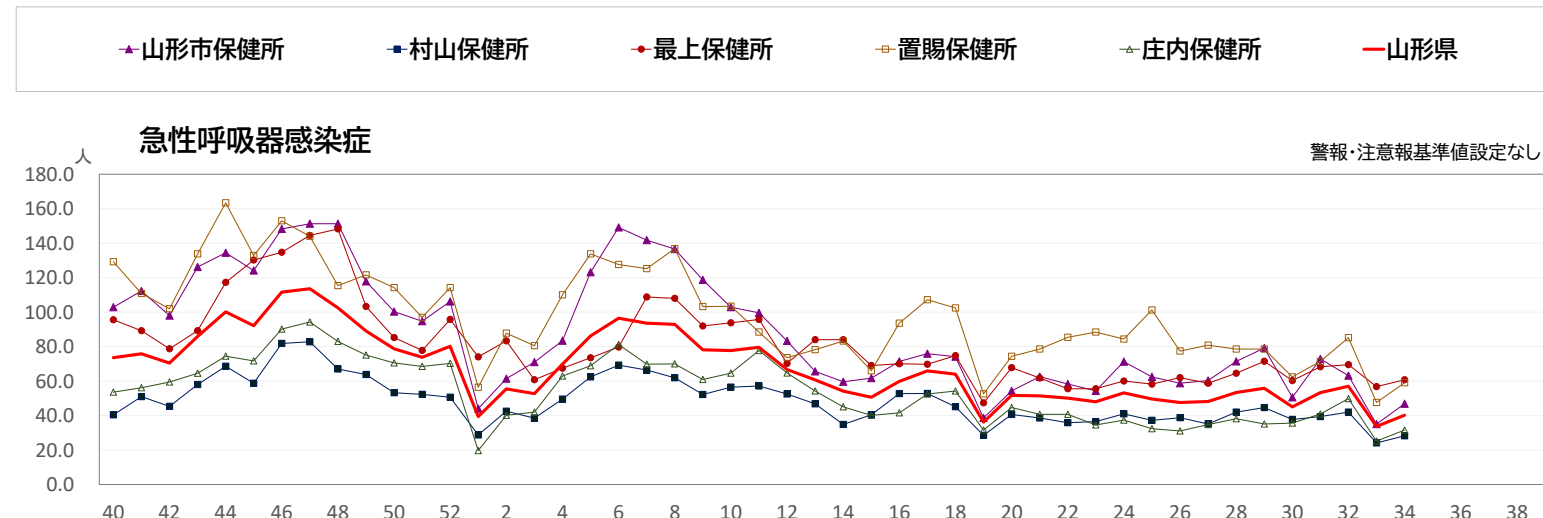
・表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

・定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

< 定点把握感染症 年齢別報告数 >

感 染 症	山 形 県												
	第34週												
急性呼吸器感染症定点 内科・小児科	0歳	1～ 4歳	5～ 9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳～	合計
急性呼吸器感染症	120	622	351	117	23	34	48	35	38	44	55	40	1527

< 定点当たり報告数グラフ >

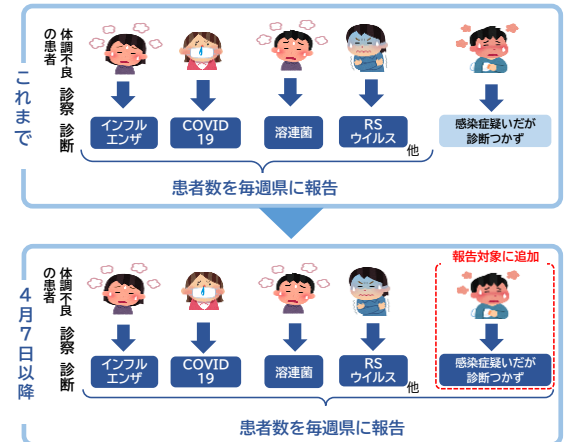
急性呼吸器感染症(ARI)
サーベイランスについて

平時より、①流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握、②未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合に迅速に探知する体制の整備、③国内の急性呼吸器感染症の発生状況について、国民や医療関係者の皆様へ情報が共有できる体制を整備するために、急性呼吸器感染症が2025年4月7日から五類感染症に位置づけられ、サーベイランスが始まりました。

ARIサーベイランスは、症例定義※に一致する患者数の発生を把握する症候群サーベイランスです。

※咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

ARIサーベイランスにおける対象感染症は、インフルエンザ、COVID-19、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に加え、新たに五類感染症に位置づけられた「(診断名のつかない)急性呼吸器感染症」となります。

詳しくは
厚生労働省HPへ ▶▶